

# 地域と歩む

SPECIAL EDITION

元気な人たちとの出会いが楽しみ

# 人づくり・地域づくりのモデルを求めて

東紀州での実験と実践



三重大学人文学部・教授  
安食 和宏 Ajiki, Kazuhiro

## 東紀州活性化大学 ゼミ活動

[URL] <http://www.kassay.org/edu>

### 1994-1995 第1期

- ★まちおこし
- ★産業おこし

### 1995-1996 第2期

- ★熊野古道マップ
- ★東紀州情報マップ

### 1996-1997 第3期

- ★東紀州遊びマップ
- ★元気人を探せ

### 1997-1998 第4期

- ★東紀州の食文化
- ★8河川水質調査

### 1998-1999 第5期

- ★知つとる東紀州
- ★海から見た東紀州

### ●地理学と地域づくり

今、各地の農山漁村では、地域づくり・まちづくり・活性化とよばれる様々な試みが繰り返されています。それは、都市的な生活や考え方を追いかけるのではなく、地元の良さを見直し独自の価値観を作り上げていこうとする動きです。私は、専門とする地理学を学びながら、地域づくりについて考えてきましたが、その一つのモデルともいえる東紀州の活動と出会うことができました。

### ●東紀州活性化大学の実験と実践

南北に長い三重県の中で、尾鷲市・熊野市を中心とした県南部は、通称東紀州と呼ばれる地域です。この東紀州では、地域の活性化を図るために、1994年から「東紀州活性化大学」という人材育成の事業が始まりました。私は、寺口瑞生氏(千里金蘭大学・助教授)と共に、この活性化大学のコーディネーターという立場で、第2期から9年間にわたって大学の運営に関わりお手伝いをしてきました。

活性化大学は、東紀州にこだわりをもつ人、地域のことを学びたいと思う人なら誰でも(年齢は45歳まで)入学できる大学です。1年を一つのサイクルとしてカリキュラムが生まれ、毎年多くの若い受講生を迎えることができました。10年間で受講生は計282名に達し、東紀州内の8市

### 1999-2000 第6期

- ★おすすめ風景と観天望気
- ★熊野芸術の創造



### 2000-2001 第7期

- ★有形文化「まちなみまわり」
- ★無形文化「夏祭りと郷土の味」

### 2001-2002 第8期

- ★熊野古道の楽しみ方
- ★六感まで楽しめる東紀州

### 2002-2003 第9期

- ★東紀州PR
- ★東紀州の水



### 2003-2004 第10期

- ★東紀州の食を探る(合同ゼミ)



町村にまたがる、個性的なメンバーからなる新しい人間のネットワークが作られました。地元のことを学び、地元の良さを生かすというのが、活性化大学の基本的な発想です。参加したメンバーは、ゼミ活動の中で地域資源に関する調査を重ね、多くの報告書を作ってきました(<http://www.kassay.org/>)。また、自分たちで提灯を作って祭りに参加したり、若者向け体験ツアーを企画し実現させるなど、積極的な活動が多数生まれました。活性化大学の試みは、他地域と比べても誇れるものといえるでしょう。

### ●次のステップへ

活性化大学は2004年でひとまず閉校となりましたが、OBたちの活動は続いています。今年東紀州で開かれている「井・DONラリー」(地元食材による井を使ったスタンプラリー)は、活性化大学OB会の企画によるものです。また、8月に愛・地球博で「三重県の日」が開催された時には、大学のOBも参加し、世界遺産・熊野古道の宣伝などを行ってきました。人づくり・ネットワークづくりから具体的なアクションへ、そして地域づくりへという一連のプロセスを、この東紀州の試みから読み取ることができます。そして、私たち大学の人間も、そうした実践活動から学ぶことが多いと思います。

▼平成17年4月20日から  
▲平成18年2月20日まで  
[URL] <http://www.kumadoco.net/index.php>